

～関心のある再活用案は？～

- 人工芝のサッカー場
- 宿泊施設(合宿等に対応)
- キャンプ場(グラウンド)
- JAのかんしょ等の選果場(グラウンド)
- 野津の地元のものを利用した喫茶
- 農林水産業の加工施設
- 農業体験の場
- 農業の人手不足による外国人就農者のための施設
- 農業、観光をPRするパネル・模型の展示
- アーティストの活動の場など貸し部屋に(空き教室)
- 公民館的機能(福祉実習棟)
- 高齢者のための施設(宿泊施設)…災害時の活用
- 市議会議員の宿舎(家賃を徴収)

～再活用案の元になる考え～

- 子どものための施設
- 誘客施設(普通教室棟)
- 若者が集まる場所
- スポーツ関連
- 当初のコンセプトが県からの払下げの条件のため堅持すべき
- 農業振興と子供のための活用の組み合わせ
- 普通教室棟とグラウンドをセットで活用
- 福祉関連
- 議会としての責任

～必要な整備～

- 10号線からの進入路の整備(2車線化)
- 10号線からの誘導のための看板設置
- 体育館・柔剣道場の耐震補強(使用者が整備する)

～検討するうえで重視すべきポイントは？～

	市内外から多くの人を集め、賑わいを生み出すこと(集客力)
	野津地域をはじめとする市民の生活が便利になること(利便性)
	新たな雇用を生み出すこと(雇用創出)
	すぐに再活用できること(早期実現性)
○	安定して経営・運営され続けること(持続可能性)
	再整備にお金がかからないこと(イニシャルコスト少)
	管理運営にお金がかからないこと(ランニングコスト少)
	賃借料などによる市の収入が多いこと(収入多)
	施設全体が統一したコンセプトで一体的に運営されること(統一感)
○	農林業の振興の拠点となること(当初コンセプト1)
○	地域住民の交流の拠点となること(当初コンセプト2)
	臼杵市の重点的施策と整合性がとれていること
	事業主体が地元の企業や団体であること(地域密着性)
	事業主体が市など行政機関であること(公共性)
	事業主体が情熱を持って取り組むこと(熱意)
	その他

まとめのコメント

ポイント…持続性が重要ではないか  
 5年できればいいのか、10年できればいいのかということはあるが、持続するような仕組みづくり  
 当初のコンセプトを堅持すべきという立場での意見  
 南側の空いているところに甘太君の選果場という案があったが、それはいいとして、普通教室棟で加工してスイーツを提供するといった条件を付けてはどうか  
 人工芝のサッカー場などは集客力があるのではないかと  
 少子高齢化を見据えた視点が重要  
 農業の担い手、外国人技能実習生の宿泊施設  
 進入路などインフラ面の整備は必要

～関心のある再活用案は？～

- 福祉学校の誘致(福祉実習棟)
- ヘルパーなど介護職の養成
- 高齢者と生徒が触れ合う場(食堂)
- ほんまもん野菜を使い、安価で高齢者がお腹いっぱい食べられる施設
- 子ども食堂
- 子ども達が集う場
- 室内で子どもが遊べる場所
- 赤ちゃん用品貸出など
- B型就労施設(梱包作業など)

～再活用案の元になる考え～

- マーケットインの考え方による検討(マーケティングなどデータに基づくもの)
- 高齢化
- 少子化(年間出生数15人)
- 乳幼児連れが室内で遊べる場所が県内にない。
- 子どもルームは好評だった
- 子育て世代の交流ができる
- 色々な物を兼ねた施設(施設ごとに機能・役割を分ける)

～検討するうえで重視すべきポイントは？～

	市内外から多くの人を集め、賑わいを生み出すこと(集客力)
○	野津地域をはじめとする市民の生活が便利になること(利便性)
	新たな雇用を生み出すこと(雇用創出)
	すぐに再活用できること(早期実現性)
○	安定して経営・運営され続けること(持続可能性)
	再整備にお金がかからないこと(イニシャルコスト少)
	管理運営にお金がかからないこと(ランニングコスト少)
	賃借料などによる市の収入が多いこと(収入多)
	施設全体が統一したコンセプトで一体的に運営されること(統一感)
	農林業の振興の拠点となること(当初コンセプト1)
○	地域住民の交流の拠点となること(当初コンセプト2)
	臼杵市の重点的施策と整合性がとれていること
	事業主体が地元の企業や団体であること(地域密着性)
	事業主体が市など行政機関であること(公共性)
	事業主体が情熱を持って取り組むこと(熱意)
	その他

～必要な整備～

- 10号線からの進入路の整備(2車線化)
- 10号線からの誘導のための看板設置
- 普通教室棟のエレベーター

～把握しておきたい諸条件～

- 交通アクセス
- 運営が成り立つかコストの把握

まとめのコメント

ハード面で大切な部分を決めていくことが大切。→通りから見えにくい、道が狭い、など。マーケティング調査をしっかりとったうえで検討する必要がある。  
 子供が毎年15人しか生まれていない、など、データの調査や数字を見る必要がある。  
 今の野津町で営業している業態は何なのか？など  
 →高齢者に食事を提供できるような場所(こどもがいて、障がい者もいて)  
 ※マーケットインの考え方をもとに検討することが重要

～関心のある再活用案は？～

- 子ども食堂(食育、不足する栄養を補う。農産物が豊富な野津ならではの)
- 高齢者が集まる場所(週1回、ランチの提供、安価)
- 空き教室にサテライトオフィス(IT企業など)の誘致
- 有事には災害拠点施設として利用(グラウンドは仮設住宅の用地)

複数の事業者が活用することで、リスクを分散できる  
(win-winの関係になるのではないか)

～再活用案の元になる考え～

- 子ども達の食の乱れが心配  
ミネラル不足,学力への影響
- 雇用創出は、持続可能性につながる
- 利便性、持続可能性を高めるための多少のコストは問題なし
- 外から来て稼いだお金を地域に落としてもらいたい
- 客を呼び込むには相当なインパクトが必要(商品、コンテンツ)
- 多様な働き方に対応
- 平時の利用方法と災害など有事の時の利用方法を分ける

～必要な整備～

- 10号線からの進入路の整備(2車線化)
- 10号線からの誘導のための看板設置

～検討するうえで重視すべきポイントは？～

	市内外から多くの人を集め、賑わいを生み出すこと(集客力)
<input type="radio"/>	野津地域をはじめとする市民の生活が便利になること(利便性)
<input type="radio"/>	新たな雇用を生み出すこと(雇用創出)
	すぐに再活用できること(早期実現性)
<input type="radio"/>	安定して経営・運営され続けること(持続可能性)
	再整備にお金がかからないこと(イニシャルコスト少)
	管理運営にお金がかからないこと(ランニングコスト少)
	賃借料などによる市の収入が多いこと(収入多)
	施設全体が統一したコンセプトで一体的に運営されること(統一感)
	農林業の振興の拠点となること(当初コンセプト1)
	地域住民の交流の拠点となること(当初コンセプト2)
	臼杵市の重点的施策と整合性がとれていること
	事業主体が地元の企業や団体であること(地域密着性)
	事業主体が市など行政機関であること(公共性)
	事業主体が情熱を持って取り組むこと(熱意)
<input type="radio"/>	その他(大規模災害時にも活用できること)
<input type="radio"/>	その他(人口の流入を含め、将来につながるスタート拠点となること)

まとめのコメント

子供の食育、高齢者の楽しみ→食の施設  
道路の整備、立て看板などインフラ整備  
災害時の避難施設  
空き教室への企業誘致  
→それぞれがwin-winになるのでは？  
一括利用は難しく、小分けにしてリスクを分散  
一つの都市のように様々な機能を持たせてはどうか  
目的達成のために必要なコストは問題ない

～関心のある再活用案は？～

- 農業とITが融合した複合施設
- 農業体験施設(体験ツアーから移住へ)
- IT教育など学びの場
- 若い人や子どもが楽しめる場
- 合宿施設(スポーツ、農業)
- 農産物の一次加工施設

～必要な整備～

- 10号線からの進入路の整備(2車線化)
- 10号線からの誘導のための看板設置
- フリーwifi

～再活用案の元になる考え～

- 段階的な取組が必要
- 持続可能性には、事業性・収益性が必要
- 施設ごとに目的を分けるのが現実的ではないか
- 規格外の野菜は廃棄するしかない
- 人口減少を見据えて  
…若い人の移住定住の拠点(人が減るスピードを緩和)  
…子ども達の人材育成
- 雇用
- 交流人口
- 人材育成
- カーボンニュートラルなど、世の中の潮流も反映させた方がよい
- 特徴ある廃校利用に
- 責任者(市or事業者)を明確に

～検討するうえで重視すべきポイントは？～

<input type="radio"/>	市内外から多くの人を集め、賑わいを生み出すこと(集客力)
	野津地域をはじめとする市民の生活が便利になること(利便性)
<input type="radio"/>	新たな雇用を生み出すこと(雇用創出)
<input type="radio"/>	すぐに再活用できること(早期実現性)
<input type="radio"/>	安定して経営・運営され続けること(持続可能性)
	再整備にお金がかからないこと(インシャルコスト少)
	管理運営にお金がかからないこと(ランニングコスト少)
	賃借料などによる市の収入が多いこと(収入多)
	施設全体が統一したコンセプトで一体的に運営されること(統一感)
	農林業の振興の拠点となること(当初コンセプト1)
	地域住民の交流の拠点となること(当初コンセプト2)
	臼杵市の重点的施策と整合性がとれていること
	事業主体が地元の企業や団体であること(地域密着性)
	事業主体が市など行政機関であること(公共性)
	事業主体が情熱を持って取り組むこと(熱意)
<input type="radio"/>	その他(将来の人材を育てられるユニークな学校)
<input type="radio"/>	その他(子供達が将来地元に戻って働きたくなるような魅力ある臼杵市となるための基盤づくり)

**まとめのコメント**  
 人が来てくれる施設  
 魅力ある施設、定住につながるよう  
 学びの場(農業体験、IT教育、子供が楽しめる)、合宿複合施設として活用する可能性があるのではないかと  
 持続可能性…事業性・収益性が大切  
 カーボンニュートラルなど世界的な流れを取り入れながら  
 責任者が誰になるのか明確になることが大切(選定)  
 市民会議でもしっかりと確認していきたい

～関心のある再活用案は？～

- 専門学校など学校の誘致
- 市外居住や外国人農業者の住居
- マッシュルームの栽培・倉庫
- グリーンツーリズムなど自由に使える施設
- 有事には災害拠点施設として利用(平時は何でもよい)

～必要な整備～

- 10号線からの進入路の整備(2車線化、吉四六ランド側)
- 10号線からの誘導のための看板設置
- 普通教室棟のエレベーター

～再活用案の元になる考え～

- ハコモノの有効活用の難しさ
- 働く者の視点
- 行政が絡むと口を出しがちになる。フリーハンドの利用はできないものか。
- 大規模災害などいざという時に縦割りの弊害が生じやすい

～把握しておきたい諸条件～

- ランニングコスト
- 各施設の耐用年数
- 運営主体はどこか
- 市職員の名簿が欲しい

～検討するうえで重視すべきポイントは？～

	市内外から多くの人を集め、賑わいを生み出すこと(集客力)
	野津地域をはじめとする市民の生活が便利になること(利便性)
	新たな雇用を生み出すこと(雇用創出)
	すぐに再活用できること(早期実現性)
	安定して経営・運営され続けること(持続可能性)
○	再整備にお金がかからないこと(インシャルコスト少)
○	管理運営にお金がかからないこと(ランニングコスト少)
	賃借料などによる市の収入が多いこと(収入多)
	施設全体が統一したコンセプトで一体的に運営されること(統一感)
	農林業の振興の拠点となること(当初コンセプト1)
	地域住民の交流の拠点となること(当初コンセプト2)
	臼杵市の重点的施策と整合性がとれていること
	事業主体が地元の企業や団体であること(地域密着性)
	事業主体が市など行政機関であること(公共性)
	事業主体が情熱を持って取り組むこと(熱意)
	その他

**まとめのコメント**  
 何をするにしても道路の便利が悪い  
 施設の耐用年数、高校生が使う想定、解体費も含めて  
 平時の活用もあるが、災害時に拠点となるようにしておいた方がいい  
 どこが運営していくかをはっきりさせる  
 民間が使いやすくするにはどうしたらいいか  
 野津町が通過地点にしかなっていないので、人が集まり留まるような施設に(学校を誘致するなど)